様式２

平成２９年度学生支援プロジェクト事業成果報告書

棚田発！日本の心のプロジェクト

代表者　　中西　利樹　（農学部応用生物科学科２年）

１．目的と概要

このプロジェクト事業は、小豆島中山地区の伝統ある棚田の景観や棚田米の素晴らしさをより多くの香川大学生、香川県民に知ってもらうことを目的としています。小豆島中山地区の棚田は全国棚田百選に選ばれており、持続させるべき文化的景観として注目されています。しかし近年、耕作者の高齢化により耕作放棄地が増加しているため景観の保全が大きな課題となっています。SUIJI や昨年度の活動の中で、中山の人と関わり「私たちにも協力できることはないだろうか」と考えこのプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、自ら棚田での稲作に携わり、その経験や小豆島の良さを様々な人に伝えることで小豆島、中山地区の棚田保全と地域振興を目指しています。

２．実施期間（実施日）

平成２９年４月１日から　平成３０年３月３１日まで

３．成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は昨年度の活動を基に継続、発展させたものです。昨年度の活動としましては、田植えや稲刈りなどを中心とした耕作活動に加え、水路掃除や農村歌舞伎、虫送りなどの小豆島中山地区の事業にも参加しました。また、農学部で行われた収穫祭において棚田で収穫したもち米を使った赤飯と餅、私たちが作成した中山を紹介するパンフレットとポストカードの配布を行いました。配布の際には、訪れていただいた方を対象にアンケート調査を行い、その結果をまとめて課題点などを見つけ、今年度の活動につなげるようにしました。

今年度の活動では昨年度の活動に加えて、中山地区の棚田に多くある耕作放棄地を有効利用し、景観の保全を目的としてコキアの定植を試験

的に行いました。この活動では定植からの管理が少ない点からコキアを採用しました。しかし、コキア以外の草抜きの手間が多くかかったため、今後も定植する棚田の枚数を広げていくことは難しいとの意見がありました。また、定植した棚田において稲作を行う際に問題なく継続して使用することができることや周辺にコキアが繁殖していることを考慮して、一度計画を見直す必要があるという結果になりました。一方で、実施したアンケート調査で寄せられたコメントから「コキアがきれいだった」との評価を頂きました。アンケート結果からは昨年度と比べて中山地区や棚田の知名度の大きな変化は無く、全体の 42%は知らないと答えていたため、引き続き私たちの活動の継続が必要です。また、中山地区の再生事業として耕作放棄地を全国の一般の人々に貸し出す制度（棚田オーナー制度）や中山の伝統行事（虫送りや農村歌舞伎）を知らない割合も半分以上であったため、外部の地域の方々に知っていただくには学生による地道な広報活動をしていかなくてはならないと思われます。

今年度の活動から中山の地域住民の方々とも関わることができ、中山での古くから守られている伝統文化を知りました。また、今年度から新たに始めたコキアの定植についても快諾して頂き、今までの活動で得られた信頼関係を感じました。

中山地区の棚田維持については、耕作活動を通じて地域の方から田植えの前にするべきことや棚田の維持の方法などを学ばせていただきました。

コキア定植の様子

農村歌舞伎の様子

４．この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、地域社会の活性化を手助けできたと思われます。私たちの活動で伝統文化の虫送りや農村歌舞伎、中山の棚田を外部に PR でき、少しでも地域活性につなげることができました。これは地域にとっても有益なため、この活動を持続的に行っていくことでより良い地域づくりを行っていけます。

このプロジェクトでは目標の一つとして、小豆島の方々の知恵と学生の行動力と発想力を互いの立場から交換することで、問題点と改善点が明らかにし、持続可能な農業と地域づくりを進めることを掲げていました。私たちは中山での活動において、コキアの定植という新たな活動を中山地区の方々と協力して行わせていただけたため、中山地区の棚田の

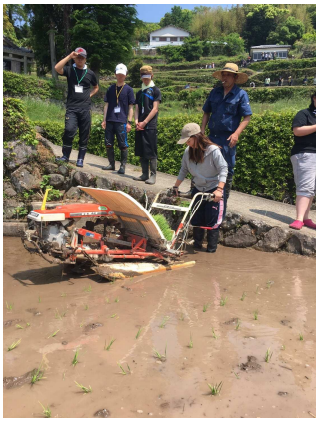
会に対しても活動の輪を広めることができたと感じています。また、香川大学は SUIJI で中山地区に関わる活動を行っているが、私達が本プロジェクトへ取り組むことによって大学と地域のつながりを一層深めることができたと思われます。

また、収穫祭で行ったアンケート調査は私たちの活動を客観的に評価していただくことができ、農学部周辺から遠い県外の方まで広い範囲の方々に関心を持っていただけました。これは地域住民の方に本学生が棚田維持を通して持続的地域活動に参加している姿を見せることで前向きな効果があると考えられます。

今年度のプロジェクトでは今までになかったコキアの活動や昨年度から継続して参加させていただいた三木町でのイベントなどの地域の自治体と協力した幅広い活動ができました。次年度では地域の方々との会議を行い、自治体の要望も加えたものにしていきます。

５．自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクトの構成員は昨年度からの参加者を除いて多くは農業の未経験者であったため、中山地区の農家の方々から作業をご指導していただき、実体験として農業を学ぶことができました。中山の棚田では急斜面や狭い道があるため大規模な機械が使えず、場所によっては手作業や小型の機械を使い、棚田の伝統ある田植えや稲刈りの方法や大変な点などを学べました。また、こうした耕作作業は学校の授業などではなかなか体験できないため貴重な経験であったと感じます。すべての農作業の工程の意味や土壌と肥料について考えることもでき、授業で得た知識の理解が深まりました。



田植えの作業の様子

稲刈りの作業の様子

プロジェクトの活動では学生のみだけでなく地域の方々との連携も重要であり、次第に地域の現状が見られました。そのため、地域が抱える問題や課題が分かり、耕作放棄地の増加以外にも人口減少や空き家問題があることを知りました。これらの問題に対して、地

域の方からの直接の話や意見から私たちに求められていることを考え、学生の立場からできることを広報等の形でできました。棚田の会として参加したイベントや収穫祭での活動は普段の学生生活ではできない経験でした。また、普段関わることのないような年代や多くの職種の方々と交流し、視野を広げることができたように思います。これらは今後の学生生活や就職活動においても役立つ経験です。

６．反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点としては、ＳＮＳ等での中山地区や棚田の広告ができなかったことが挙げられます。また、予算の見通しが甘く、計画的な執行ができなかったことも挙げられます。以上から、今後は活動計画をより正確にし、精力的に活動を広げていきます。来年度の活動では、地元の方々にお手伝いいただいていた稲作作業を増やし、自立した活動にしていくことを目的としています。

最後になりましたが、私達の活動の指導をしていただいた小豆島役場の方々、中山地区自治会の皆さま、そして農学部田島先生、松村先生に感謝いたします。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

７．実施メンバー

代表者　中西　利樹（農学部２年）
副代表　林　　和馬（農学部２年）
　　山本　綾　（農学部３年）
構成員　中島　健登（農学部３年）
　　冨田　真澄（農学部３年）
　　夏目　佳奈（農学部３年）
　　小池　裕之（農学部３年）
　　萩原　奏　（農学部３年）
　　坪井　昌宏（農学部２年）
　　上原　健　（農学部２年）
　　須賀　太智（農学部２年）
　　石井　友惟（農学部２年）
　　恒次　若菜（農学部１年）
　　鈴木　芳幸（農学部１年）
　　松本　涼花（農学部１年）
　　田村　帆高（農学部１年）
　　倉本　大樹（農学部１年）
　　稲毛　大賀（農学部１年）
　　古谷　仁紀（農学部１年）
　　別所　歩武（農学部１年）
　　橋本　朗　（農学部３年）
　　宮脇　愛子（農学部３年）
　　深川　裕貴（農学部３年）
　　安藤　愛海（農学部３年）
　　岩本　遼　（農学部２年）
　　千葉　廉　（農学部２年）
　　友廣　祐介（農学部２年）
　　長舩　智美（農学部２年）
　　杉内　脩太郎（農学部１年）
　　白鯛　圭吾（農学部１年）
　　玉置　裕也（農学部１年）
　　白井　里樹（農学部１年）
　　松良　有海（農学部１年）
　　村中　梨恵（農学部１年）
　　島村　祐成（農学部１年）
　　大槻　涼花（農学部１年）